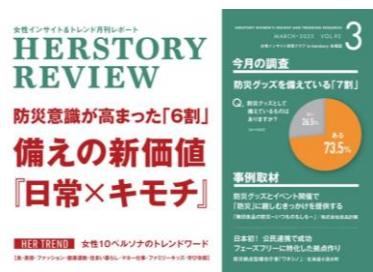


WEBアンケート調査結果

防災に関する アンケート

本調査レポートは、
HERSTORYREVIEW2025年2月10日発行の
3点セット(冊子・調査レポート・動画)の
WEBアンケート調査レポートです。



**HERSTORY
REVIEW**

2025
Vol.92

3月号

防災意識が高まった「6割」

備えの新価値『日常×キモチ』

調査概要

調査目的	近年、自然災害の頻発を受け、防災への関心が高まっている。そこで当社では、防災に対する意識や取り組みの現状を把握するために、防災に関する意識調査を実施。本調査では、防災への意識の変化や取り組みの状況に加え、実際にどのような防災グッズを備えているのかについても調査。さらに、男女の違いなどにも着目し、より実態に即した防災意識の現状を探った。
調査手法	WEBアンケート
対象者条件	【期間】 2025年1月18日（土）～2025年1月22日（水） 【対象】 15歳以上の男女1353人（年代：男性 170人、女性 1183人：10代 12人、20代 124人、30代 277人、40代 308人、50代 354人、60代224人、70代以上54人） 【地域】 日本全域

■あなたについて教えてください（属性に関する質問）

- Q1 性別（SA）
- Q2 都道府県（SA）
- Q3 年齢（SA）
- Q4 婚姻状況（SA）
- Q5 就労状況（SA）
- Q6 居住形態（SA）
- Q7（マンションの場合）階層（SA）
- Q8 世帯年収（SA）
- Q9 家族構成（MA）
- Q10 同居家族（MA）
- Q11 生活クラスター（SA）

■REVIEW掲載

- Q1 防災グッズとして備えているものはありますか？（SA）
- Q2 直近1年以内の、防災に対する意識の変化を教えてください。（SA）
- Q3 直近1年で「意識が高まった」理由（FA）
- Q4 非常用持ち出し袋一式を用意していますか？（SA）
- Q5 どのような災害を想定して非常用持ち出し袋を用意していますか？（MA）
- Q6 非常用持ち出し袋を用意していない理由を教えてください。（MA）
- Q7 あなたがご自宅で、防災グッズとして備えているものを教えてください。（MA）
- Q8 非常食や防災グッズを用意するとき、どのようなことを意識していますか？（MA）
- Q9 フェーズフリー※についてどのくらいご存知ですか？（SA）
- Q10 これから買おうと思っている商品（モノ・サービス）を教えてください。（FA）

調査質問項目一覧

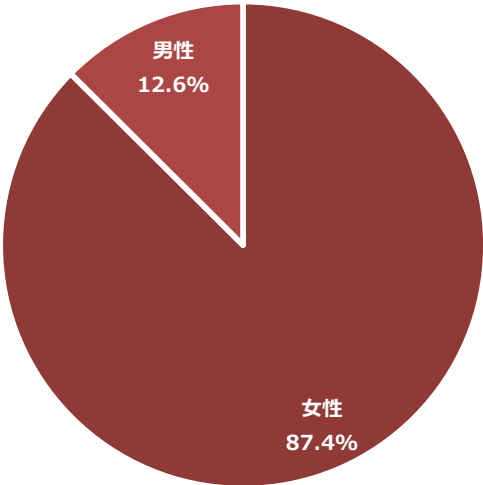
■REVIEW非掲載

NQ1 ハザードマップによる自宅周辺の自然災害リスクについてご自身に近いものを教えてください。

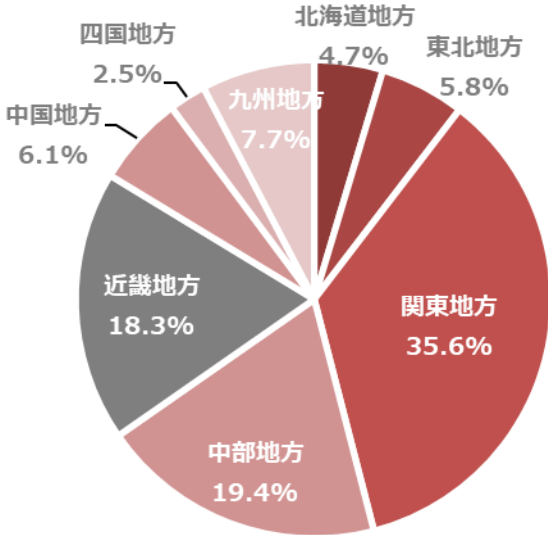
NQ2 お住まいの近くの避難所について、どの程度知っていますか？

回答者の概要

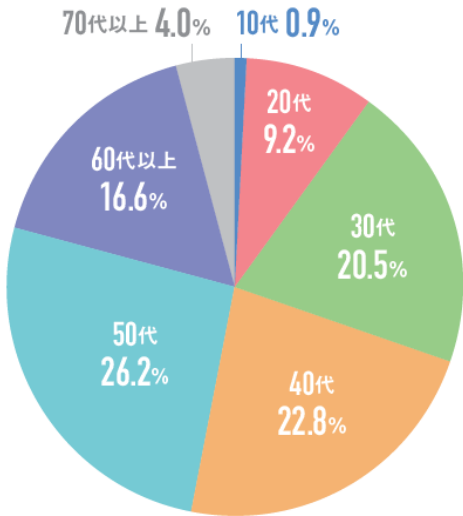
Q1性別（SA）



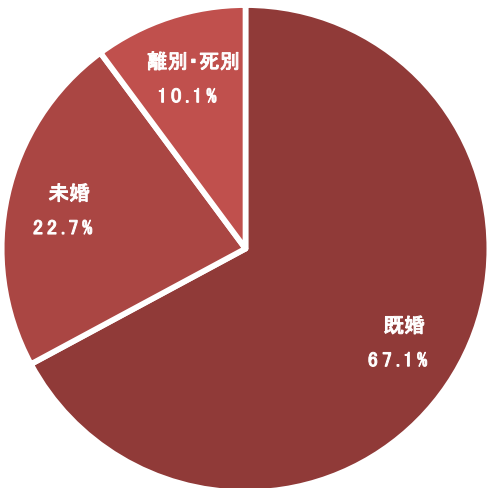
Q2都道府県（SA）



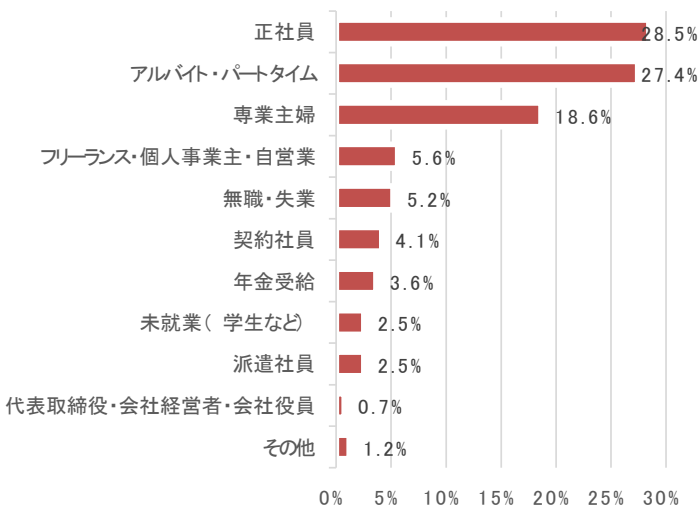
Q3年齢（SA）



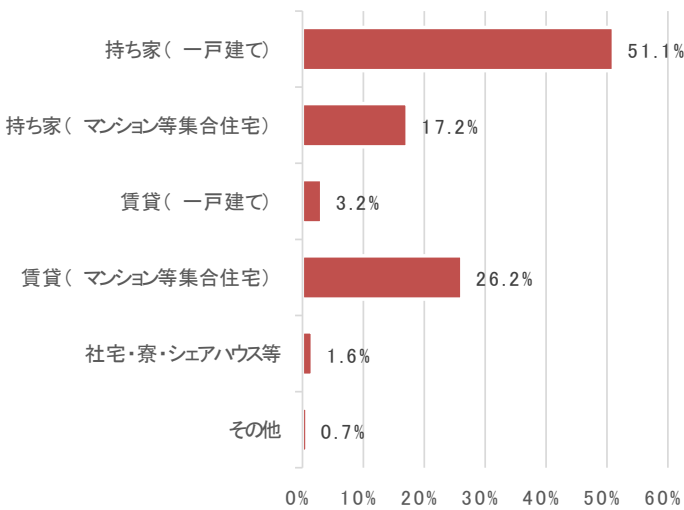
Q4婚姻状況（SA）



Q5就労状況（SA）

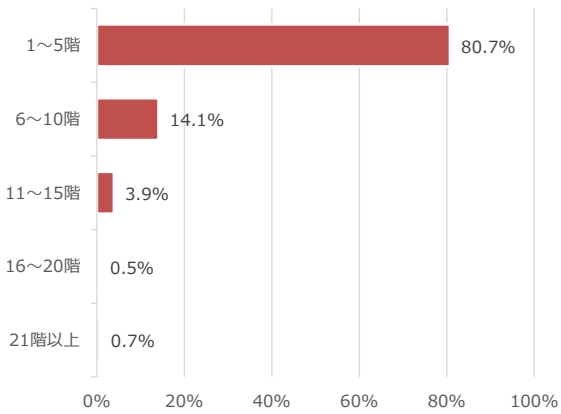


Q6居住形態（SA）

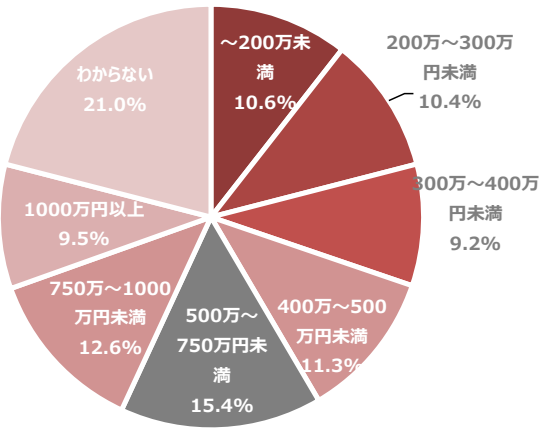


回答者の概要

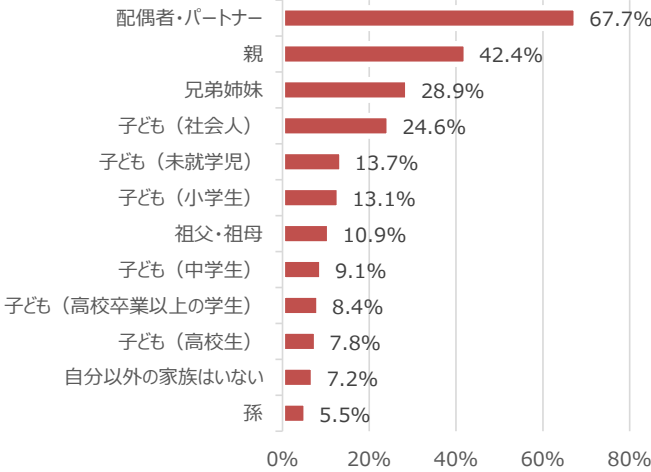
Q7（マンションの場合）
階層（SA）



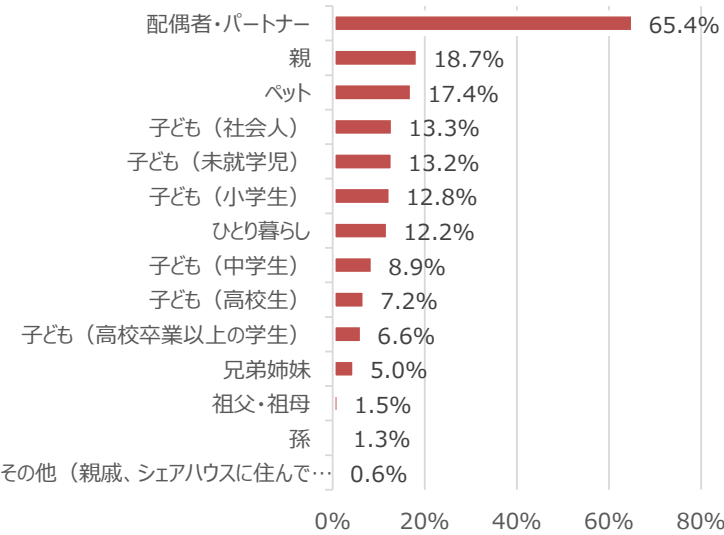
Q8世帯年収（SA）



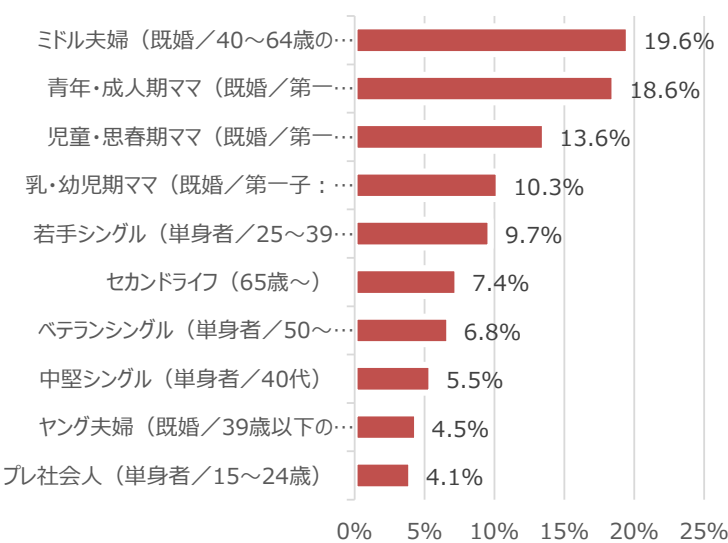
Q9家族構成（MA）



Q10同居家族（MA）



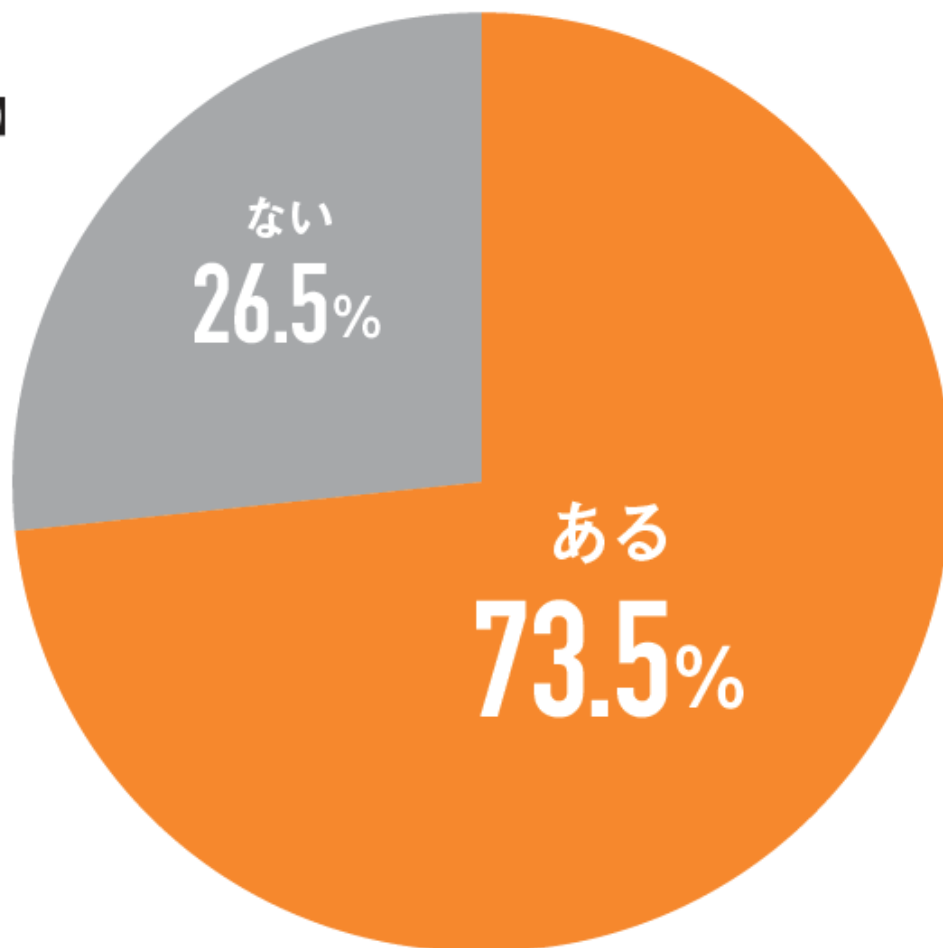
Q11生活クラスター（SA）



[HERSTORYREVIEW掲載]調査分析・解説

Q1 防災グッズとして備えているものはありますか？

【n=1353】



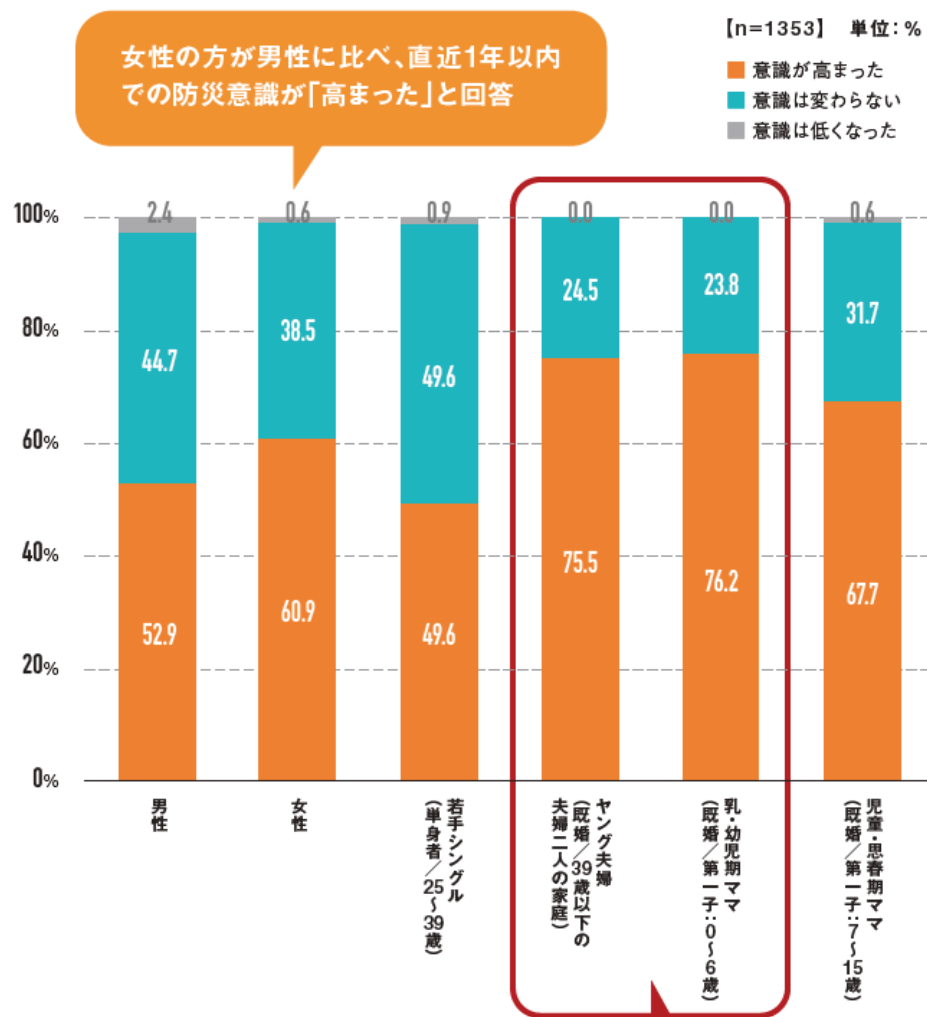
地域別

- 最も高かったのが東北地方で85.9%
- 最も低かったのが北海道で66.7%

クラスター別

- 最も高かったのがセカンドライフで86.2%
- 低かったのが若手・中堅シングル層で約63%

Q2 直近1年以内の、防災に対する意識の変化を教えてください。



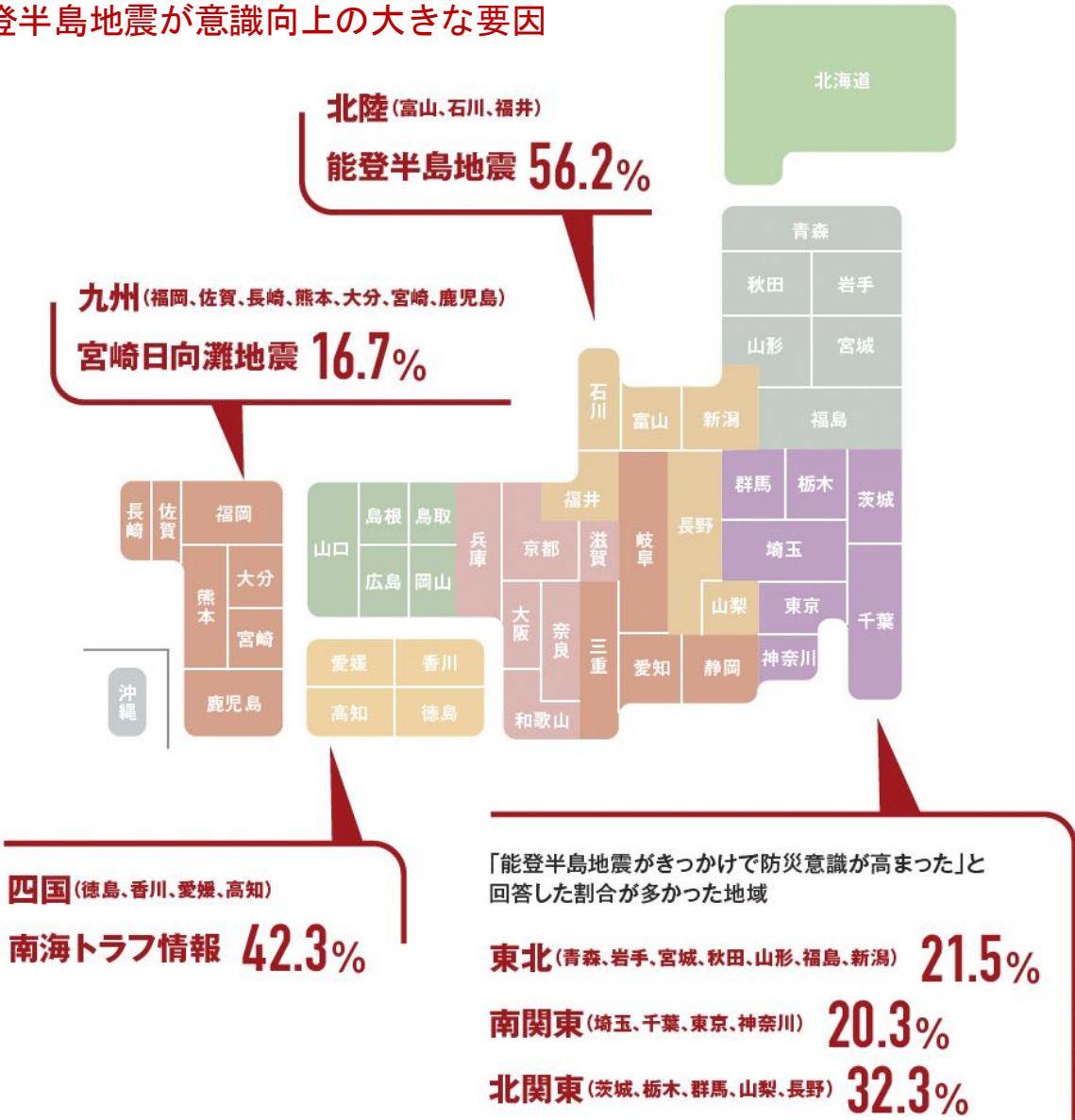
全体の約60%の人が「防災意識が高まった」と回答しており、多くの人が災害に対する意識を強めている。
シングル層よりも、家族を持つ（特に小さい子どもがいる）層の方が防災意識が高い。

→ 子どもを守る責任感や家庭での防災対策の必要性が影響している可能性がある。

クラスター別では、シングル層より家庭を持つ（特に小さい子どもを持つ）クラスターの方が意識が高まっている。

Q3 直近1年で「意識が高まった」理由

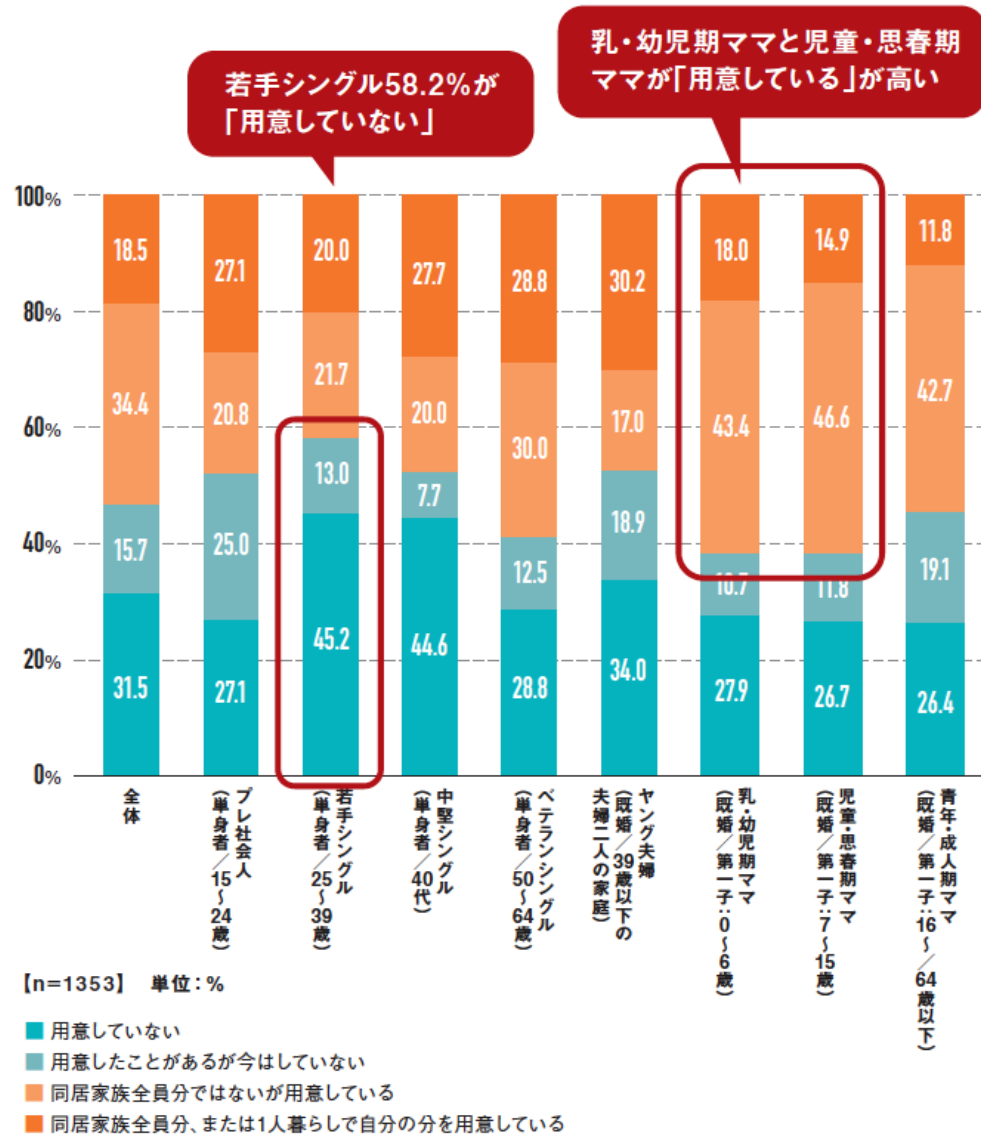
能登半島地震が意識向上の大きな要因



能登半島地震（2024年1月）が、防災意識向上の最も大きなきっかけになっている。全国的にこの地震をきっかけに防災意識を持った人が多い。特に北陸地域（富山・石川・福井）では56.2%の人が防災意識向上を実感。

Q4 非常用持ち出し袋一式を用意していますか？

全体では52.8%が用意している。

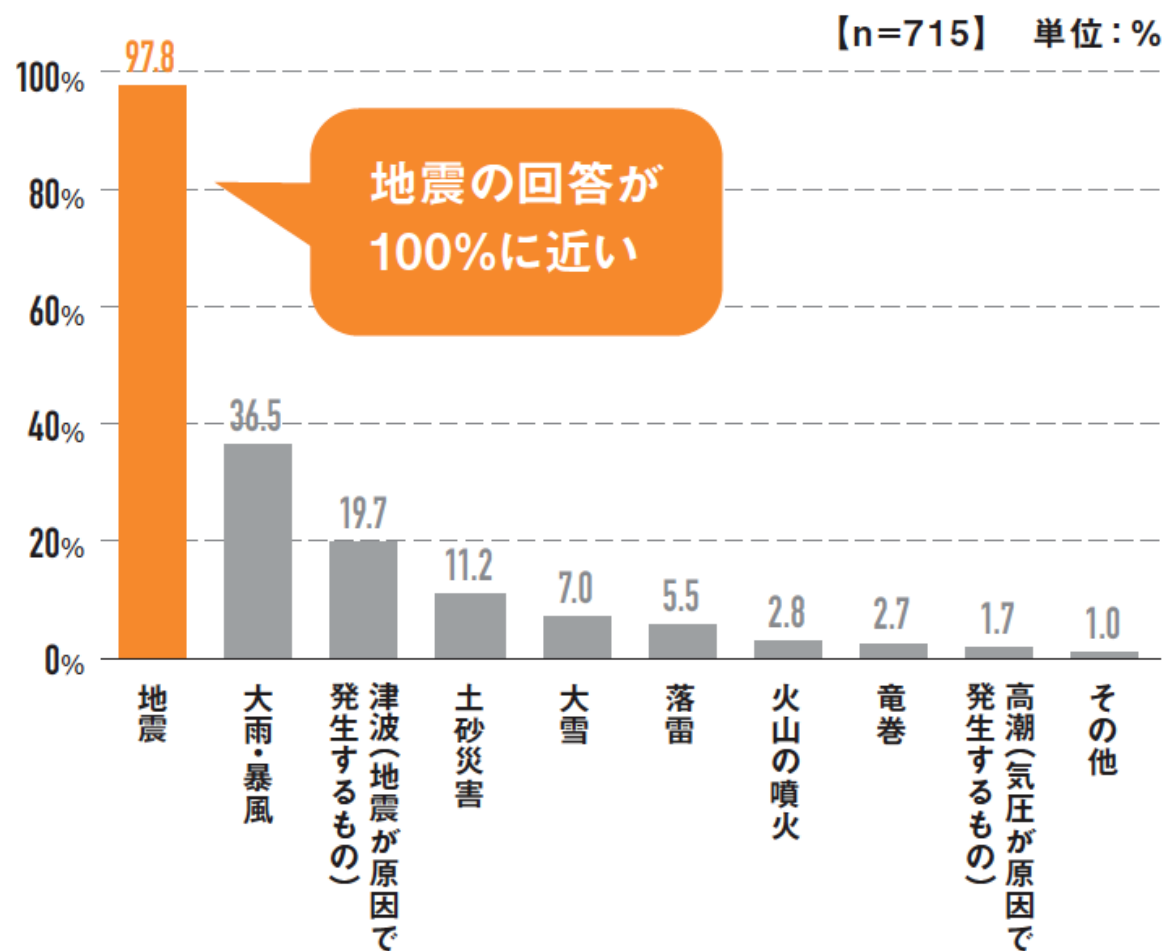


同居家族全員分準備している：子どもがいないクラスターの方が高くなる傾向。準備する量が少ないことが影響していると考えられる。

代表するクラスター

ヤング夫婦、ベテランシングル、中堅シングル、プレ社会人

Q5 どのような災害を想定して非常用持ち出し袋を用意していますか？

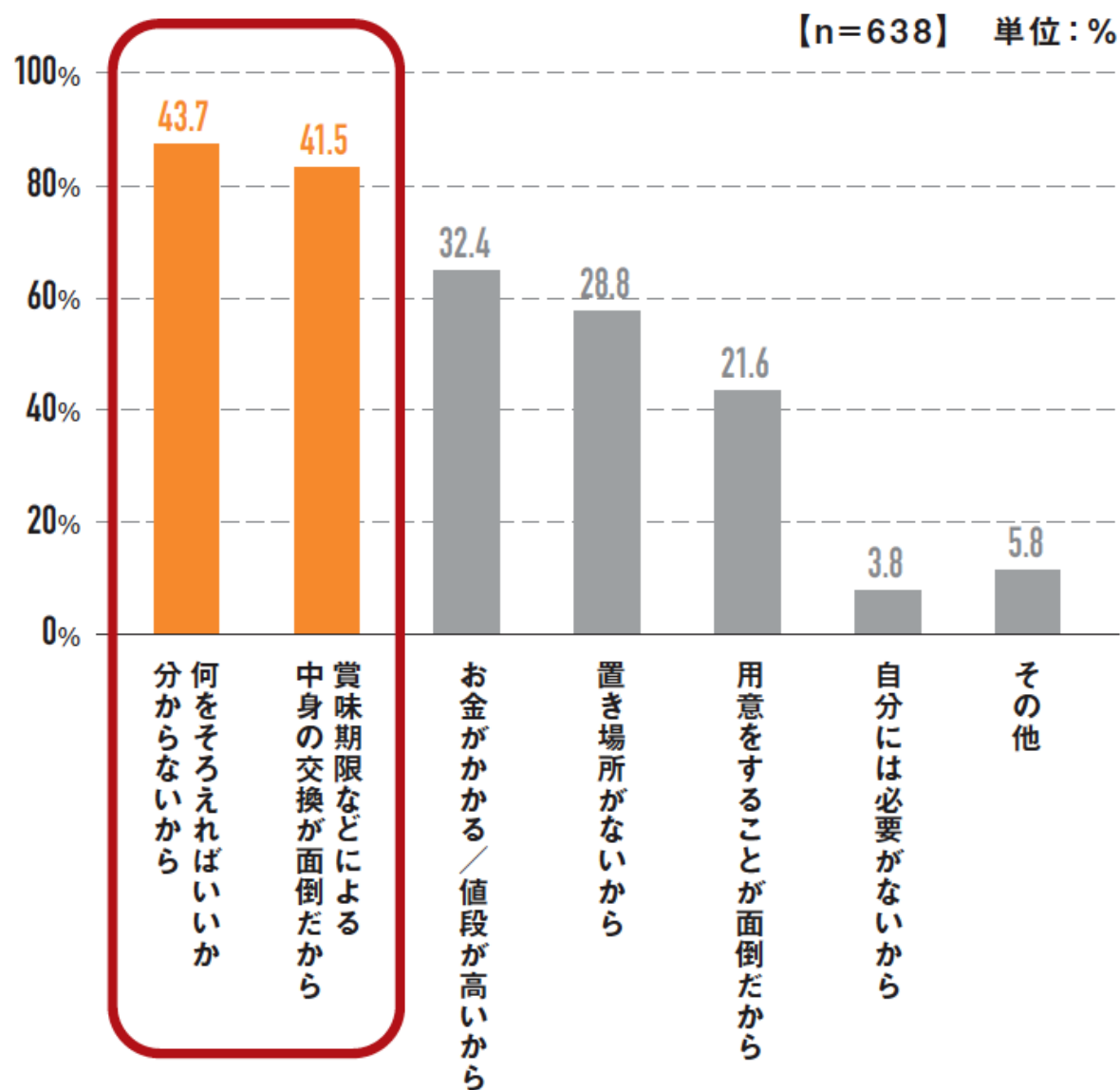


Q3の防災意識が高まったきっかけのFAでも過去の地震に関連するものが多く聞かれた。

気象庁が発表している日本の地震活動によると、M6.0以上の年間地震回数は16回（過去103年間の中央値）。

（出典：令和3年12月 地震・火山月報（防災編））

Q6 非常用持ち出し袋を用意していない理由を教えてください。



「何をそろえればいいかわからない」、
「中身の交換が面倒」がトップ。

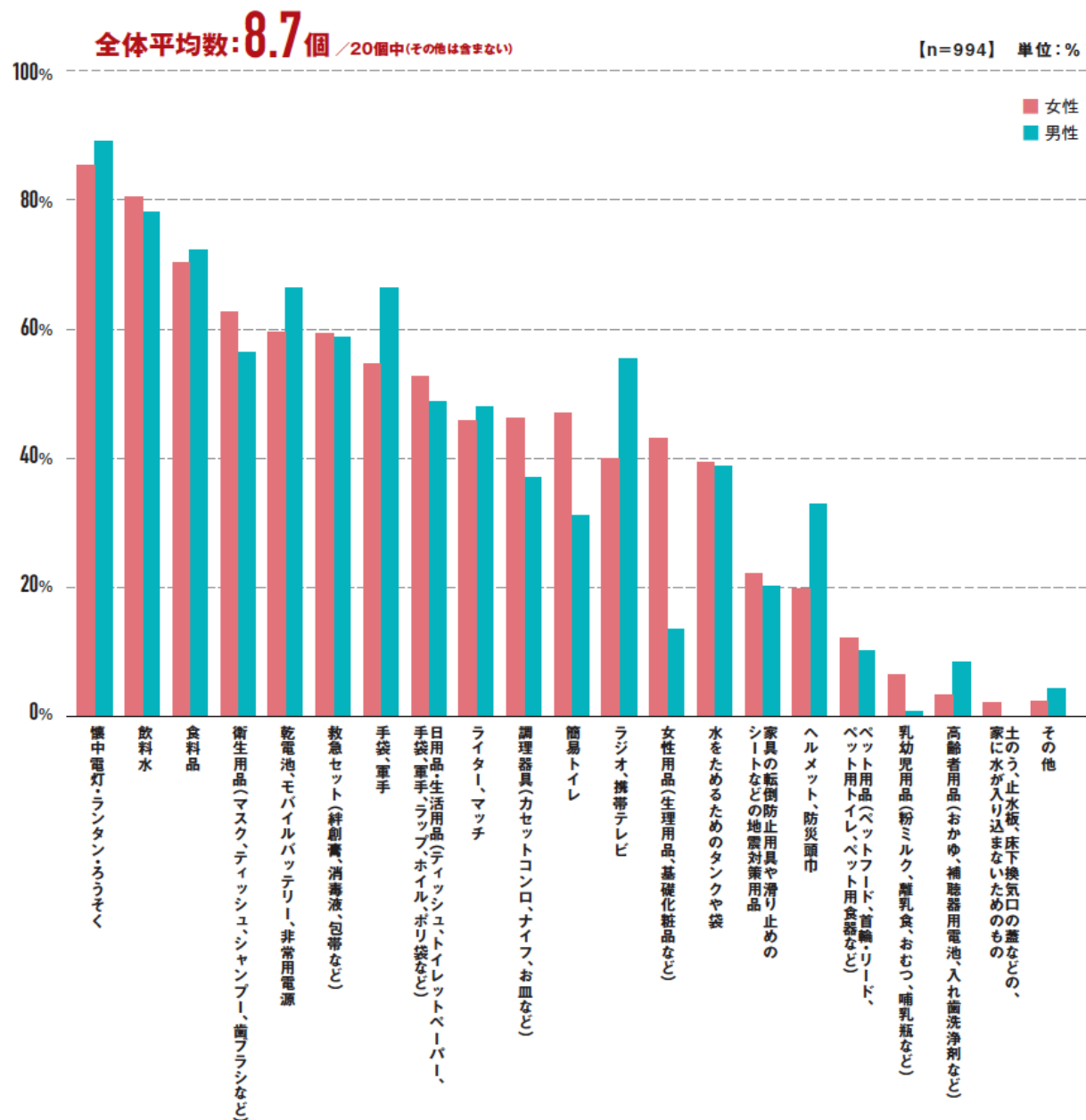
男女別では、

女性：何をそろえればいいかわからない、置き場所がない

男性：用意することが面倒が高い傾向に。

→ 防災で必要なものが一式そろっているものや、交換がしやすいもの、交換時期がわかりやすいものの需要がある

Q7 あなたがご自宅で、防災グッズとして備えているものを教えてください。



備えている個数に差はないものの内容に差あり

**男性: 作業用品や
情報収集のためのアイテム**
女性: みんなが過ごしやすくなるような備え



男性: 8.6個 / 20個中
(その他は含まない)

男性が高かった
防災グッズ※

- ・ヘルメット、防災頭巾
- ・手袋、軍手
- ・乾電池、モバイルバッテリー、非常用電源
- ・ラジオ、携帯テレビ



女性: 8.7個 / 20個中
(その他は含まない)

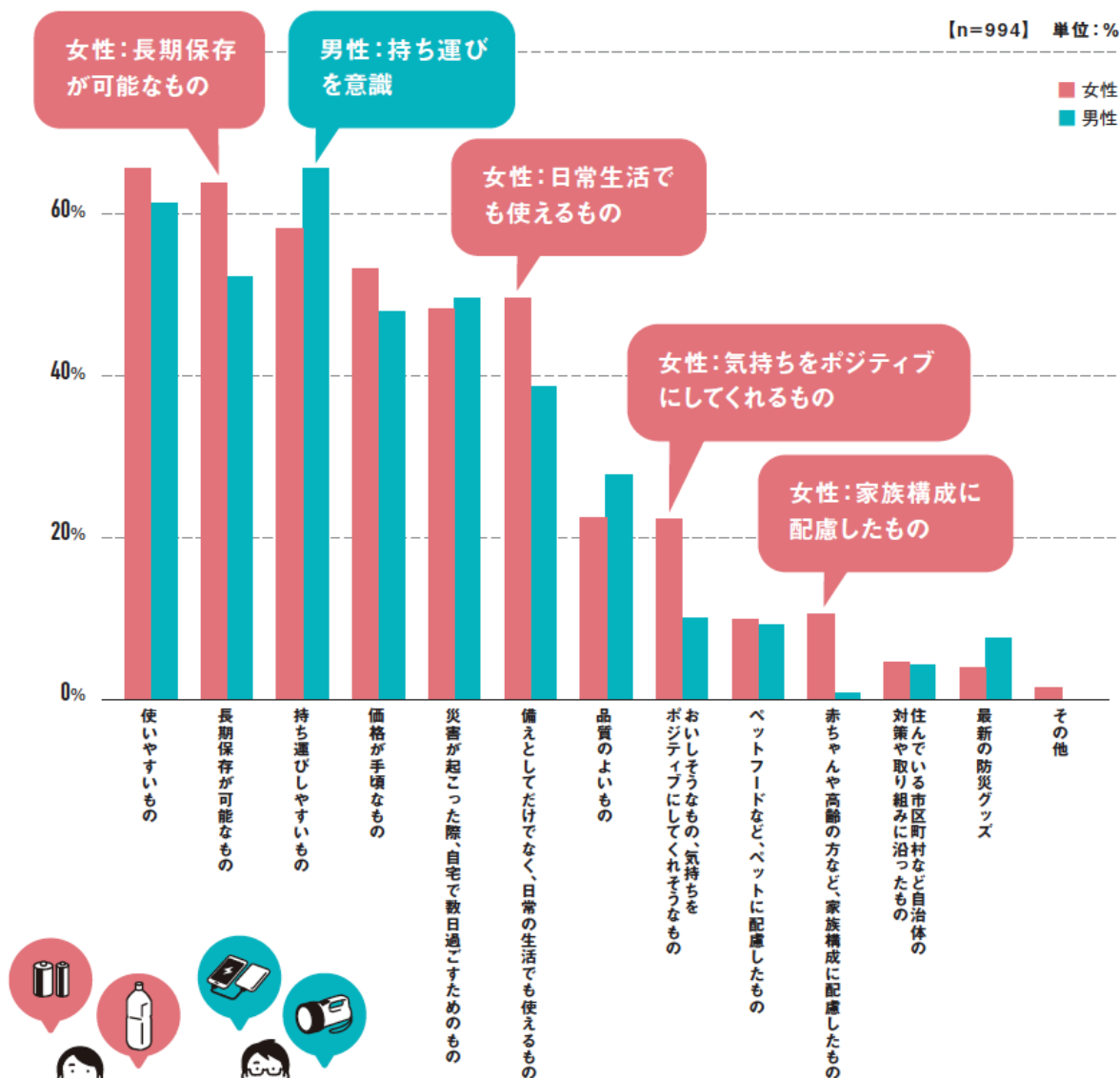
女性が高かった
防災グッズ※

- ・調理器具(カセットコンロ、ナイフ、お皿など)
- ・女性用品(生理用品、基礎化粧品など)
- ・乳幼児用品(粉ミルク、離乳食、おむつ、哺乳瓶など)
- ・簡易トイレ

※有意差があったものを選出

クラスター別では、セカンドライフ層が最も多く(9.8個)、プレ社会人が最も少なかった(6.0個)。年齢が上がるほど防災への意識が高いと考えられる。

Q8 非常食や防災グッズを用意するとき、どのようなことを意識していますか？



“モノ”で見る男性と、“キモチ”で見る女性



男性が意識していること

- ・持ち運びのしやすさ
- ・品質の良さ
- ・最新の防災グッズかどうか



実用性と機能性が重要



女性が意識していること

- ・長期保存が可能
- ・日常生活でも使える
- ・気持ちをポジティブにしてくれる
- ・家族構成に配慮している



安心感や情緒が重要

年代別：10代～30代では特に、品質の良さや気持ちをポジティブにしてくれるもの、家族構成に配慮したものが選ばれていた。

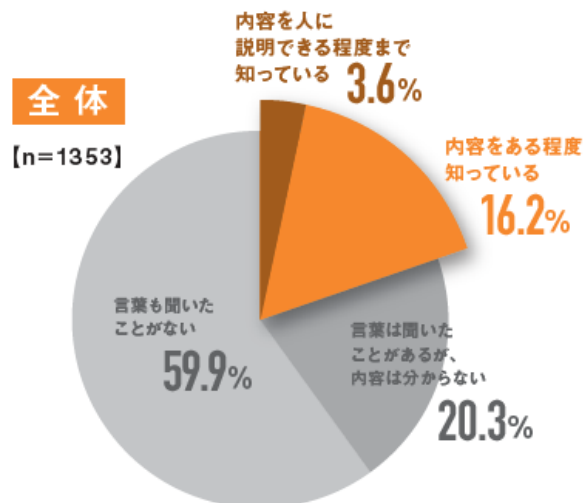
一方で、年齢が上がるにつれ、防災用品は「備え」だけでなく日常使いできるかどうかや、自宅避難を想定した品揃えも重要視されている。



Q9 フェーズフリー※についてどのくらいご存知ですか？

※フェーズフリー ... 普段の生活で便利に活用でき、災害時にも役立つ商品・サービス・アイデアのことを指す。

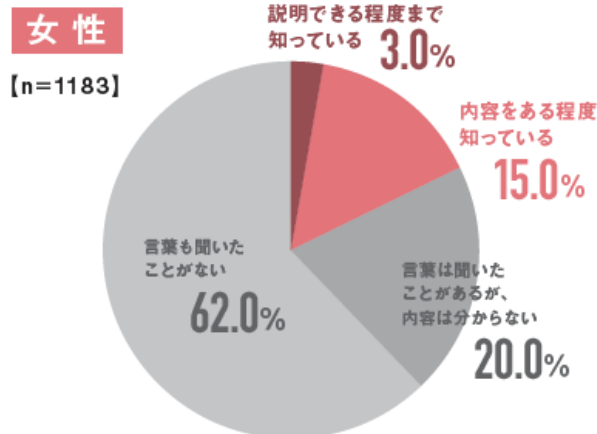
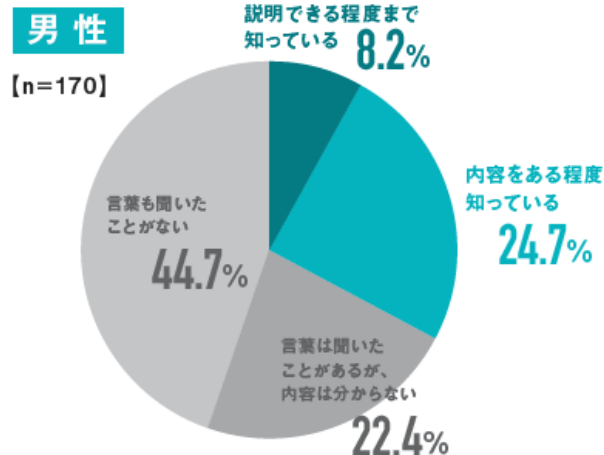
「フェーズフリー」の認知度は全体の約2割にとどまっており、多くの人にまだ浸透していない状況。しかし、一方でQ8では「日常生活で役立つ防災グッズ」をしている人は全体の約半数にのぼる。このことから、フェーズフリーの認知は進んでいないものの、実際にはその活動や考え方に沿った行動をとっている人が多いことがわかる。



全体で「フェーズフリー」について知っている人はおよそ2割

女性は20代～30代の認知が進んでおらず、およそ7割が「言葉も聞いたことがない」と回答。
一方で、セカンドライフ層や70代以上など、年齢の高い層に認知されていた

男性の方がフェーズフリーに対する認知度は高い



Q10 これから買おうと思っている商品（モノ・サービス）を教えてください。

無印の**いつものもしも**

鹿児島県・25歳～29歳・ヤング夫婦
（既婚／夫婦二人の家庭）

無印良品の**チョコようかん、 ダイソー防災ボトルグッズ**

埼玉県・40歳～44歳・青年・成人期ママ
（既婚／第一子：16歳～）

キャンプ用寝袋、耳栓、タオル
ケットやストールなど**目隠し
になる大きめの布**など

奈良県・45歳～49歳・児童・思春期ママ
（既婚／第一子：7～15歳）

折り畳めるヘルメット

（産婦人科で常備してて良いなと思い
探してます！）

神奈川県・40歳～44歳・乳・幼児期ママ
（既婚／第一子：0～6歳）

防災セット一式

茨城県・45歳～49歳・青年・成人期ママ
（既婚／第一子：16歳～）

携帯トイレ

東京都・60歳～64歳・ミドル夫婦
（既婚／夫婦二人の家庭）

アレルギーの入っていない
**長期保存食品、水、
安全スリッパ**



より多い容量の
モバイルバッテリー

京都府・20歳～24歳・男性



小さな**携帯用ラジオ、
避難用猫グッズ**



神奈川県・50歳～54歳・ミドル夫婦
（既婚／夫婦二人の家庭）

ローリングストック
できるような食品

福岡県・40歳～44歳・中堅シングル



[HERSTORYREVIEW未掲載]調査結果

グラフの色・記号の説明

[比率の差]

	全体+10%
	全体+ 5%
	全体- 5%
	全体-10%

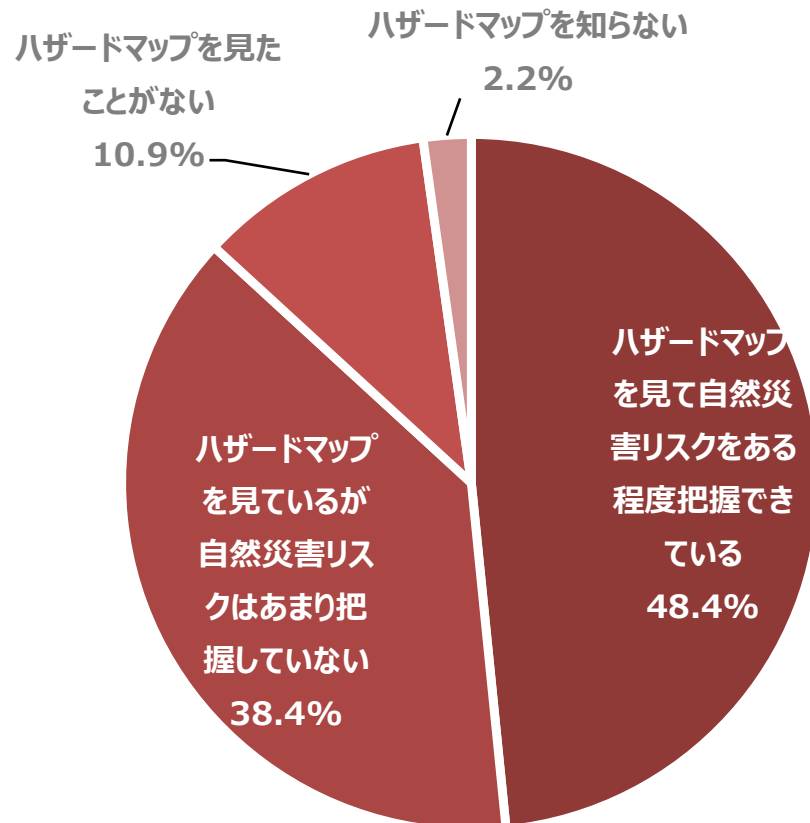
[全体との差の検定]

有意水準	高	低
1%	▲	▼
5%	△	▽
10%	∴	∴

n = 30 以上が対象

ハザードマップの認知度は高いものの、内容の理解度には差があり

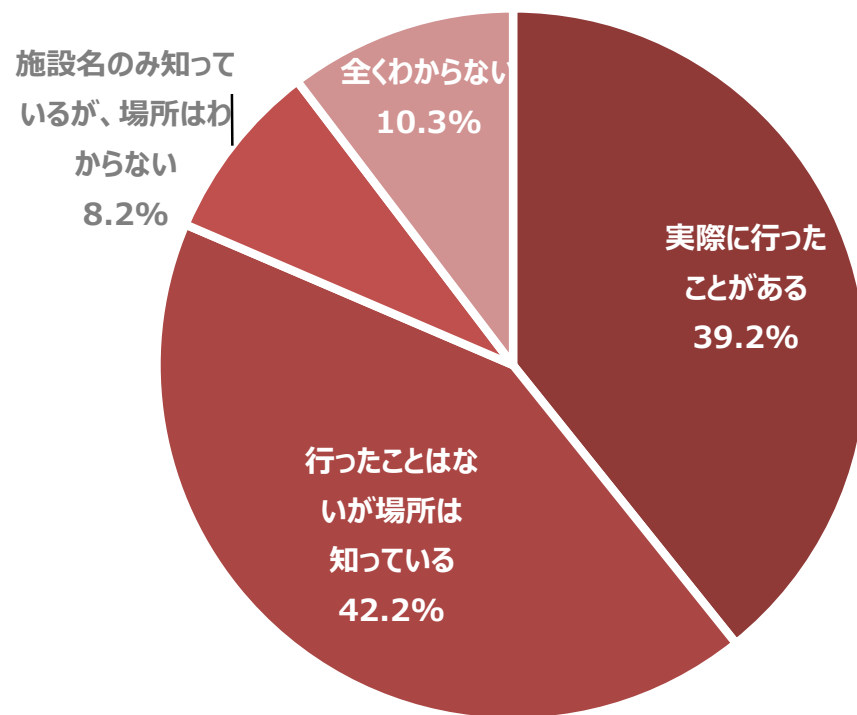
NQ1 ハザードマップによる自宅周辺の自然災害リスクについてご自身に近いものを教えてください。



- 約87%の人々がハザードマップを見たことがある一方で、約38%の人がハザードマップを見ても自然災害リスクを十分に把握できていない状況
- 約48%の人はハザードマップを見て自然災害リスクをある程度把握できている

避難場所の認知は8割、実際に足を運ぶ人は半分の4割

NQ2 お住まいの近くの避難所について、どの程度知っていますか？



- 約8割の人が避難場所を知っていると回答
- 一度も行ったことがなくても、場所を知っている人が4割以上
- 実際に避難所に行ったことがある人は約4割
- 多くの人が避難所の場所を認知している一方で、実際に避難所に行ったことがある人はまだ少数